

分野	13	学校教育	通番 16
施策	131	学びの充実	
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	読書活動の充実		会計	款	項	目	12,227,506	学校教育課
			一般	10	2 3	1		
事業の概要								
確かな学力を育むために読書活動の更なる推進を図ります。								

平成30年度の取組							
D (取組)	指標	児童(小学生)一人あたりの図書室図書の読書冊数				単位	冊
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	30.4(平成26年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	32.5	36.2	36.4		
	指標	生徒(中学生)一人あたりの図書室図書の読書冊数				単位	冊
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
8.1(平成26年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	
	実績	7.1	8.2	7.8			
<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省が定める「学校図書館図書標準」を目標とし、各校において新規図書の購入及び蔵書の整備を行いました。 ・学校図書館司書を配置し、図書館環境の整備、啓発活動等を行いました。 (読み聞かせ等本に触れる機会の設定、委員会活動の充実、選書会の実施、配架の工夫等) <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税「こどもたちに本を贈ろうプロジェクト」により、小中学校合わせて約340冊の図書を購入しました。 					小学校 読み聞かせ指導 		

施策の「5年後の目標」に対する評価			
平成30年度の達成状況			
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド
			—
C (評価)	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の蔵書整備とふるさと納税による購入により、全体として蔵書冊数を増やしており、児童生徒が本を手にとりやすい環境を整えることができました。 ・図書館司書の配置により、啓発活動や本の借り方指導等を実施することができ、児童生徒が図書館利用、読書しやすい環境を整えることができました。 ・ふるさと納税により多くの図書を購入し、蔵書内容を充実させることができました。 ・中学校での一人当たりの読書冊数については、昨年度よりも減少しているが、過去5年間の平均値は上回っている状況である。
	課題等		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が読書する機会を増やすための図書館環境の更なる充実が課題です。 ・適切な蔵書の更新(古い本の廃棄)が課題です。 ・年齢が上がるほど、読書冊数は減少し、読書をする、しないの2極化が進んでいる現状がある。

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当
	対応策等 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、「学校図書館図書標準」を目標とし、蔵書の整備を行います。 ・学校図書館司書を配置し、図書館環境の整備を進めるとともに、図書館だより等を使い児童生徒への読書啓発活動を進めていきます。

分野	13	学校教育	通番 17
施策	131	学びの充実	
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	外国語活動推進事業		会計	款	項	目	17,851,262	学校教育課
			一般	10	1	2		
事業の概要								
英語教育の充実のため、小学校においては外国語活動指導員(日本人)による授業回数を拡充し、外国語活動の充実をさらに進めます。また、中学校においては、英語指導助手(AET)をアーリントンから招き、ネイティブの英語に触れ、異文化や異なる生活習慣を学ぶ機会を設けることで、グローバルな人材の育成をさらに進めます。 また、英語に対するモチベーションを高めるため、中学3年生を対象に英語技能検定の検定料を負担します。								

平成30年度の取組							
D (取組)	指標	京都府学力診断テスト質問紙調査における、「外国語活動の勉強は好きだった」の回答率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	70.0(平成26年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	76.3	77.2	73.4		
	指標(H30年度～)	英語技能検定3級以上の取得率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	23.8(平成27年度)	目標	/			50.0	50.0
		実績	/			64.6	
	<p>・生きた英語に触れる機会を作るため、2名のAETを中学校に配置し、英語のコミュニケーション能力の向上に努めました。また、小学校にも延べ66日訪問し、生きた英語に触れる機会を作りました。</p> <p>・小学校における外国語活動の指導の交流、工夫や改善をめざすため、小学校外国語活動指導員を各小学校へ配置し外国語活動を行いました。時間数も新学習指導要領移行に合わせて3、4年生は年間15時間、5・6年生は50時間に増やしました。また、指導員のミーティングを年間13回実施しました。</p>						
	中学校英語授業風景						

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成30年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生に対しての英語検定の公費受検を使い、平成30年度は47.9%の生徒が受験し、英検3級以上の取得率もこれまでで最高となりました。 ・小学校においても、担任への指導資料を作成し、AETと協力して指導に当たることができました。
課題等	・再来年度から、新学習指導要領が完全実施され、小学校の外国語活動の授業時間数及び学習内容が増加することになるため、それに伴う対応が必要です。			

目標達成に向けての次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1: 計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・再来年度から、新学習指導要領が完全実施となり、授業時間数及び学習内容が増加することを踏まえ、授業を円滑に運営するため、教職員研修や、AETとの連携を進めていきます。 ・併せて、授業時数増に伴う、小学校外国語活動指導員の配置についても検討していきます。(時数増の対応) ・中学3年生の英語検定公費受検についても、受検者の増加をめざし、生徒への啓発を行っていきます。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・再来年度から、新学習指導要領が完全実施となり、授業時間数及び学習内容が増加することを踏まえ、授業を円滑に運営するため、教職員研修や、AETとの連携を進めていきます。 ・併せて、授業時数増に伴う、小学校外国語活動指導員の配置についても検討していきます。(時数増の対応) ・中学3年生の英語検定公費受検についても、受検者の増加をめざし、生徒への啓発を行っていきます。
方向性	対応策等				
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・再来年度から、新学習指導要領が完全実施となり、授業時間数及び学習内容が増加することを踏まえ、授業を円滑に運営するため、教職員研修や、AETとの連携を進めていきます。 ・併せて、授業時数増に伴う、小学校外国語活動指導員の配置についても検討していきます。(時数増の対応) ・中学3年生の英語検定公費受検についても、受検者の増加をめざし、生徒への啓発を行っていきます。 				

分野	13	学校教育	通番 18
施策	131	学びの充実	
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	中学校米国短期交換留学事業		会計	款	項	2,316,436	学校教育課
			一般	10	1		
事業の概要							
米国アーリントンへの短期留学によって、異文化を知り、自己を相対化する視点をもつことで、グローバルな舞台でも積極的に挑戦し活躍できる人材となれる機会を提供します。							

平成30年度の取組							
D (取組)	指標	訪米生徒の市民対象報告会の参加人数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	149(平成27年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	151	143	175		
<p>・本市から4月25日～5月5日の日程で中学生16名と引率3名がアーリントンを訪問しました。</p> <p>訪問中は、ビショップ小学校・オトソン中学校・アーリントン高校で生徒間交流や施設見学をするとともに、アーリントン内・ボストン市内及びハーバード大学を見学しました。さらに、ホストファミリーと過ごし、アメリカ現地での生活を通して、アメリカ文化の一端に触れることができました。</p> <p>・また、7月4日～7月15日の日程でアーリントンの中高生が長岡京市を訪問し、児童生徒やホームステイ先家族と交流を持ちました。</p> <p>・帰国後、現地の活動内容や学んだこと、訪米期間中に感じたことを生徒達が映像を交えて市民対象に報告会を開催し、多くの市民に世界にチャレンジし、異文化を体験する魅力の発信をしました。報告会に向けて、多くの市民が興味を持ち、参加していただくため、生徒及び保護者に開催チラシの配布を行うとともに、広報誌やホームページにも掲載しました。</p>						<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">アーリントンの訪問風景</div> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成30年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
		—	—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<p>・中学生への事前説明会や広報紙などを通してPR活動を行い、70名の応募者から厳正なる審査の結果、意欲的な16名の生徒を選出しました。</p> <p>・訪問団員は約6カ月の英語学習により、英語運用能力を向上させた上で姉妹都市を訪問しました。また、その学習会では、英語以外にアメリカの文化や現地の歴史等についても勉強したため、訪問した際の理解がより深まり、帰国後の報告会でも、生徒から様々な体験や感想が数多く報告されました。</p>	
	課題等	・市民対象報告会の参加人数を増やすため、本事業で得られる体験や学びを発信したり、市民対象報告会の開催について広報する機会・取組を増やすことが課題です。		

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<p>・訪米団員による活動内容を他の生徒や市民に報告することで、国際理解をさらに深め、国際人として世界にはばたくきっかけづくりを進めます。</p> <p>・市民対象報告会の開催について広報する機会・取組を増やすため、広報紙やホームページ以外のメディアで、本事業に係る内容の発信を検討します。</p>

分野	13	学校教育	通番 19
施策	131	学びの充実	
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	中学校給食の導入と 小学校給食施設の改善		会計	款	項	目	290,968,608	学校教育課
			一般	10	1	2		
事業の概要								
子どもの育ちを支える観点などから中学校給食実施のための整備を進め、合わせて老朽化している小学校給食施設の改善に努めます。学校給食において地産地消の推進と食育に関する指導の充実に努めます。								

平成30年度の取組							
D (取組)	指標(H29年度～)	小・中学校給食施設の改修状況				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	平成28年度 新規事業	目標	小・中学校給食施設の改修・設置計画の策定	中学校給食開始に向けて、親校となる小学校給食施設の改修及び子校となる中学校配膳室の準備	中学校給食の開始(2校/4校)	中学校給食の全校実施(4校/4校)	・中学校給食の継続実施 ・小学校給食施設の改修計画の検討
実績		中学校給食施設の建設及び小学校施設改修計画の策定	中学校給食施設の建設及び中学校配膳室の整備並びに施設の改修	中学校給食施設の建設及び中学校配膳室の整備 中学校給食2校の開始			
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校給食開始に向けて、30年度は長八小敷地内に共同調理場を、長四中に給食室を新たに建設し、長三中には配膳室を増築しました。合わせて長八小、長四中、長三中にエレベーターの設置も行いました。 ・中学校2校において、質を落とすことなく、温かい給食を提供することができました。 ・小学校の給食室においては、施設の修理や備品購入を行いました。 						<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">中学校へのコンテナ運搬の様子</div> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成30年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・長二中、長四中の給食を開始することができました。 ・南部共同調理場及び長三中配膳室の整備ができました。 ・長八小、長三中のエレベーターの整備ができました。 ・中学校の生徒にも給食を提供することで、給食を教材とした学校における食育を推進することができました。 	
	課題等		<ul style="list-style-type: none"> ・長六小、長八小の旧給食室の解体、長六小敷地内の建設予定の中部共同調理場および長中配膳室、長六小および長中のエレベーター建設について調整を図る必要があります。 ・中学校の給食指導について足並みをそろえながら進めていく必要があります。 ・小中連携した9年間を見据えた食育に取り組む必要があります。 	

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・建設においては関係機関や地域、保護者とも連携を取りながら計画的に進めます。 ・給食指導の手引を基本に4中学足並みそろえて給食指導に取り組んでいきます。 ・中学校にも地元産農産物の提供ができるような体制づくりを検討します。

分野	13	学校教育	通番 20
施策	131	学びの充実	
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	学びをはぐくむ土台づくり支援事業		会計	款	項	4,369,140	学校教育課
			一般	10	1		
事業の概要							
各学校の課題に応じ、大学教員等を講師とした研修による教師力の向上と学力低位層児童生徒の支援(学力向上サポーター配置)を行い、児童生徒の学力向上を目指します。 また、小中学校では、次期学習指導要領のキーワードである主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を、デジタル教科書やタブレット端末等のICTを活用して進めていきます。							

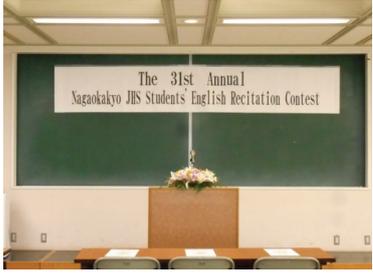
平成30年度の取組							
D (取組)	指標	京都府学力診断テストで正答率が50%未満の割合				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	小学4年生 国語 17.58 算数20.75 中学1年生 国語 13.01 数学34.85 中学2年生 国語 15.01 数学21.79 (平成26年度)	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
	実績	小学4年生 国語 16.13 算数11.29 中学1年生 国語 13.72 数学16.37 中学2年生 国語 10.91 数学20.21	小学4年生 国語 10.99 算数13.11 中学1年生 国語 18.91 数学25.89 中学2年生 国語 15.84 数学17.19	小学4年生 国語 5.09 算数11.11 中学1年生 国語 7.30 数学17.81 中学2年生 国語 13.08 数学22.33			
<ul style="list-style-type: none"> 各学校においては、新学習指導要領実施の準備期間に向けて、教職員対象の研修を実施しました。 中学校では学力向上サポーターの配置を行い、基礎基本の定着と学習意欲の向上に向けた支援を行いました。 全小中学校でコンピューター室のパソコンをタブレットとしても使える2 in 1型に更新し、アクセスポイントを使って教室内のLAN環境をつくり、授業の中で能動的活動から深い学びにつながる環境の整備を行いました。 						 <p>校内授業研</p>	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成30年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応員
		—		—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 昨年より正答率50%以下の割合は減少している、京都府より本市の割合は少ないことから、児童・生徒は府平均以上の学力をつけていると捉えています。 各学校では、授業研究を中心とした実践的研修で、講師の指導助言を得ることで、教職員の意識の変容が見られ授業改善が進みました。 2 in 1型のパソコンに更新したことにより、グループで話し合いながらの授業等を進めていく環境が整備できました。 	
課題等	個々の学力差が大きく、特別支援や配慮の必要な児童生徒や、基礎基本的な学力が定着していない生徒への、個別指導・支援を充実させるための手立ての検討が必要です。				

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、大学教授等の専門的、分析的な視点から指導・助言を得ることで、さらに授業力の向上を図り授業改善を進めます。 各学校において教職員対象の研修を実施し、教師力の向上を図ります。 中学校では学力向上サポーターの配置を行い、継続して学習支援を行います。

分野	13	学校教育	通番 21
施策	131	学びの充実	
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	「育ち」と「学び」の支援体制整備		会計	款	項	2,857,930	教育支援センター
			一般	10	01		
事業の概要							
教育支援センターにおいて、不登校やいじめ、心身の発達、学習や学校生活などの教育や子育てに関する課題や相談に専門の相談員等が安心と信頼を醸成しながら丁寧に対応できる体制を充実します。							

平成30年度の取組								
D (取組)	指標	全国学力・学習状況調査の質問「学校に行くのは楽しいと思う」に対する「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答率(小学校)				単位	%	
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
	90.1(平成26年度)	目標	91.0		92.0	93.0	94.0	95.0
		実績	86.4(小学6年生)		86.7(小学校6年生)	87.0(小学4年生)		
	指標	全国学力・学習状況調査の質問「学校に行くのは楽しいと思う」に対する「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答率(中学校)				単位	%	
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
85.0(平成26年度)	目標	86.0		87.0	88.0	89.0	90.0	
	実績	86.1(中学3年生)		82.5(中学3年生)	92.0(中学1年生)			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育最前線を担う教職員の研修事業として「授業づくり」「道徳」「算数数学」に特化した研修のほか、「LGBT」「授業改善」の特別研修を行いました。 ・児童生徒の学習意欲を喚起する学習発表会事業として「中学生英語暗唱大会」「わたしの主張発表大会」「小学生アイデア作品展」を行いました。 ・適応指導教室(アゼリアひろば)では、不登校児童生徒が学校生活や社会生活における自立の力を身につけられるよう集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善等との相談・指導を行いました。 ・教育相談事業では、臨床心理士による面談及び電話による「教育相談」、専門相談員(カウンセラー)による面談及び電話による「就学相談」、児童精神科医師による「来所相談」、遊戯療法士によるプレイセラピーを実施しました。 ・28~30年度に文部科学省の不登校児童生徒への支援モデル事業の委託を受け、教育相談員・教育支援員を市内小学校に派遣する取組を行いました。 					発表会事業(中学生英語暗唱大会) 			

施策の「5年後の目標」に対する評価			
平成30年度の達成状況			
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド
	達成度合	不登校出現率	小学校は0.39 (H29は市0.48、府0.50、国0.54) 中学校は3.39 (H29は市3.11、府3.01、国3.25)
			195
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が、学びの場である学校が楽しい所であると認識できることは、学校教育が総合的に良好に機能している事と言えます。小学校は目標より低くなっていますが、府平均比較で小学校+3%となっています。各学校の特色ある教育活動の成果と考えます。センターとしては、対処療法的な取組以上に、教職員研修や発表会事業等の児童生徒の成長と発達への積極的な取組が市内各校の教育活動に反映しているものと考えます。また、保護者や教職員の子育てや教育に関する悩み等に対応した教育相談や学校現場に心理の専門家が向いて行う直接の心理的支援の機会が充実したことによる教育への期待感や安心感も作用していると考えます。 ・児童生徒・保護者の教育上の悩みについて、タイムリーに対応できる相談体制の充実 ・児童生徒が「行きたくなる学校」「楽しく学べる学校」となるよう、教員の教師力向上に向けた教職員研修の充実 		

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・今日的教育課題に即したテーマ設定及び研修形態等を工夫した教職員研修を企画する。 ・教育相談機能、就学相談、プレイセラピー(適応指導教室を含む)の啓発と柔軟な相談対応を行う。

分野	13	学校教育	通番 22
施策	131	学びの充実	
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	いじめの問題等への対策		会計	款	項	目	930,388	学校教育課
			一般	10	1	2		
事業の概要								
いじめ等対策指導員を配置し、いじめ等の実態把握を行うなど、各学校への巡回指導を実施します。各学校では、学期ごとにいじめアンケートを児童生徒に行い、いじめの早期発見・早期対応に努めます。								

平成30年度の取組							
D (取組)	指標	重大事案発生数				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	0(平成26年度)	目標	0	0	0	0	0
		実績	0	0	0		
<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期、いじめアンケート及び聞き取り調査を行い、事象に対する早期対応に努めました。 ・「いやな思いをした」児童生徒については、日々の様子に複数教員で目を配り、約3か月後に再度事象が継続していないかなどの確認を行いました。(追跡調査の実施)併せて、定期的にいじめ対策委員会を実施に、情報の共有を図り、いじめの未然防止、早期発見・対応に努めた。 ・市及び各校のいじめ防止対策基本方針の改訂を踏まえ、各校において教職員に対し研修会を通し、改訂内容の周知を図った。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成30年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応頁
		—	—	
達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ等対策指導員が学校を巡回し、児童生徒の出席状況、学習状況、生活環境など把握し教職員との情報共有を行うことで、いじめにつながる芽の早期発見に努めました。 ・認知件数は、小学校中学校共に昨年度より増加しましたが、教職員の丁寧な対応の結果、解消率も増加しています。 ・SNS上のトラブルは増加傾向にあり、低年齢化しています。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、日々のきめ細かな児童生徒の観察を行うために、情報共有の場や組織対応での見守りを強化が必要です。 ・スクールカウンセラー、市教委、教育支援センター等関係機関との連携・相談を更に充実していくことが重要と考えます。 ・早期発見、早期対応に向け、児童生徒の援助希求的態度の育成、自殺予防教育等の取組が必要です。 		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、いじめ等対策指導員が学校を巡回し、児童生徒の生活環境から教職員との情報共有を行い、また、学校生活での観察を行います。 ・各校においても、いじめ対策委員会を中心に、教職員全体で情報を共有し、スクールカウンセラーやいじめ等対策指導員、市教委、教育支援センター等関係機関と連携し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応組織的に進めていきます。

分野	13	学校教育	通番 23
施策	131	学びの充実	
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	学校での部活動支援		会計	款	項	1,299,660	学校教育課
			一般	10	3		
事業の概要							
部活動の充実を支援するとともに、競技力の向上を図るため、遠征費等の充実に努めます。							

平成30年度の取組							
D (取組)	指標	長岡京市スポーツ賞のわかたけ賞受賞者数				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	20人 9団体 (平成26年度)	目標	—	—	—	—	—
		実績	23人 7団体	33人 10団体	29人 10団体		
<p>・平成30年度は府大会50%、近畿大会70%。全国大会100%の補助率で大会出場に係る交通費等の補助を行いました。</p> <p><実績></p> <p>長岡中学校：298,100円 長岡第二中学校：183,220円 長岡第三中学校：416,100円 長岡第四中学校：402,240円</p>					<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">部活動風景</div> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成30年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<p>・平成30年は、合計1,299,660円補助を行い、保護者の経済的負担の軽減を行いました。</p> <p>全国大会は、開催場所によっては、相当な保護者負担となる為、各種選手派遣補助金制度は保護者の負担軽減となっています。</p> <p>また、近畿大会へ14名、全国大会へ7名が出場し、生徒全体の競技力の向上が見られました。</p>
課題等	—			

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<p>・今後も、部活動への側面的支援の方法として、遠征費(交通費等)の補助を行います。</p> <p>・また、それ以外の部活動への支援策を検討していきます。</p>